



2016年(平成28年)7月15日

発行：東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集：同窓会報編集委員会

# 桜修館校舎外壁に校章 八雲が丘学友会が寄贈

桜修館中等教育学校の正面玄関の上、4階の高さの外壁面に、大きな校章が取り付けられました。磨き上げられたブロンズ製の校章が光っているのを、校門の

外からも見ることが出来ます。これは桜修館創立10周年の記念に、八雲が丘学友会(旧制府立高 都立大附高、桜修館の三校同窓会の連合)が寄贈したものです。

## 三校をつなぐ象徴

ご存じのように桜修館は、旧制府立高以来の校旗、校章、校歌を引き継ぎました。校章は、三校をつなぐ象徴的な存在のひとつというこ

夕日を浴びるとキラキラ輝きます



## INDEX

校舎外壁に校章を寄贈	1
第二ステージへの出発	2
懐かしの恩師、寄稿	3
寄稿、校章のあれこれ	4
山荘「吾亦紅」	5
同期会・クラス会・同好会	6,7
事務局インフォメーション	8
桜修館同窓会の発足	9
同総会会則・細則	10,11
計報、会費納入のお願い	12

とが出来ます。今でも桜修館の生徒たちの制服には校章バッジがつけられ、夏のシャツの袖には校章がプリントされています。

しかし学帽をかぶる習慣が無くなったことから、外部の人がこの校章を認識するチャンスは減ってしまいました。今回、外からも見える校舎の高い位置に校章を取り付けられたことで、校章の象徴としての存在感はより大きくなったのではないのでしょうか。

## 桜の内側に旭日

私たちの校章は、桜の内側に旭日がデザインされています。伝え聞くところによれば、これは旧制府立一中の校章「旭日の内に桜」を逆にしたものとのこと。旧制府立高を創設した初代校長の川田正激先生が、府立一中校長を兼務していたところからこのようになった

たと言われています。

制定のいきさつはともあれ、「桜の内側に旭日」の私たちの校章は、すっきりとしたデザインで好感をもたれているようです。

ところで今回、大きな校章レリーフを製作するにあたっては、ちょっとした苦労がありました。いくつかの参考資料の、桜と旭日の形が違うのです。

(4面・5面「桜に旭日」校章のあれこれ(参照) **木型製作の苦労** もっとも権威ある校章の形は、校旗に金糸で縫い取られているものです。ここから平面で示す時の、基本の校章が出来ています。

一方、立体の校章としては、帽子につける帽章が代表格です。他に、今の桜修館では制服につけるバッジがあります。



ブロンズ製鏡面磨きでピカピカ

平面の基本的校章では、桜の花びらはふっくらと丸みを帯びており、20本ある長中短3種類の旭光はやや長め、真ん中の丸は小さめです。これに対して帽章は、花びらが先細りのがった形で、短めの旭光の先は中抜きになっています。

この形の違いをどのように統合するか、木型を彫る職人の方には大変苦労していたきました。

全体の輪郭となる桜の花びらは山折のダイヤカットにし、花弁と旭光の間に中抜きは作らない。立体感を出すため長、中の旭光は磨き、短い10本は磨かない。など、何度もやり取りをして今回の校章が出来上がりました。

**安全性への配慮** 学校の校舎に取り付けるものですから、安全性には



製造に使った木型

## 第二ステージへの出発

都立桜修館中等教育学校長  
金田喜明



都立大学附属高等学校の同窓会の皆様におかれましては、ますます御清祥のことと存じます。都立桜修館中等教育学校の校長に赴任し、三年目を迎えました。

このたび、本校の創立十周年を記念して、八雲が丘学友会から校舎外壁面に校章レリーフを取り付けていただきました。このことが実現するために、宍戸理事長をはじめ同窓会役員の方々に多大なお力添えをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、桜修館の今春の大学合格状況からお知らせいたします。五期生一五〇名のうち、四二名が現役で国立大学に合格いたしました。その中で、東京大学に

二名、京都大学に一名、東京工業大学に一名が合格しました。東京大学には既卒者でもう一名合格しております。また、難関私立大学に七九名が現役合格いたしました。特に早稲田大学には例年より多い四六名が合格しました。さらに、いわゆるGMARCHには一三七名が合格いたしました。

一方、今春の適性検査では、昨年度より倍率はやや下がったものの、それでも六・七一倍の高倍率を突破した男子七五名、女子八五名が第一期生として入学いたしました。新入生を迎えた桜修館は、現在、国が進めている教育改革を念頭に置きながら、次の十年を見据えた新しい教育活動をスタートさせています。

平成二八年度から三年間、本校は東京都教育委員会より英語教育推進校の指定を受けました。この事業は、「聞く」「話す」に重点を置いて

たきめ細かい指導を実施し、生徒個々の英語力を伸ばさせようとするものです。これにより、生徒個々の習熟に応じてネイティブの指導を受けることが可能となり、A1型授業も一層進展し、コミュニケーション能力の向上が期待できます。あわせて、定期的な外部検定試験を受験させて成果を把握し、大学入学希望者学力テスト等の四技能重視に対応できる力を育成します。

また、今年度から東京都オリンピック・パラリンピック教育が全公立学校で実施されます。これにより、「ボランティアアインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の五つの資質を重点的に育成するとしています。このオリパラ教育に関連して、国際理解教育や国際交流活動を充実・拡

大する取組として「世界ともちろプロジェクト」というものがあります。本校では、オランダ、トルコ、ソマリア、トリニダードトバゴ、シンガポールの五か国について幅広く学習するとともに、実際の交流へと深化させる活動を行う予定です。そこで、もし皆様の中に、五か国の留学生や大使館等で知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ御紹介ください。

最後になりますが、都立大学附属高校同窓会の皆さまの御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍をお祈り申し上げます。



（↑面から↑↑）  
気を使いました。

直径70センチ、重量30kgをしっかり校舎に取り付けるため、太めのアンカーボルトを使い、十分な深さに穿孔して、カフセル式のケミカル接着でアンカーをしっかり埋め込み接着しました。もともと重力がアンカーと直角方向に働き、アンカーを引き抜く力は加わりませんが、脱落の恐れはありませんが、風をはらまない形状とするなど、十分な配慮を行いました。校舎を壊さないかぎり取り外せないとのこと。

### 先輩諸氏にお礼

今回の事業にあたっては、旧制府立高校同窓会から八雲が丘学友会にご寄付いただいた資金を活用いたしました。また、帽章やバッジをレリーフ制作の資料としてご提供いただき、誠に感謝いたします。



アンカーボルトでしっかり固定



下から見上げると小さいようですが、近くで見るとかなりの大きさ



高所作業車のアームをいっぱい伸ばして



取り付け前の校章レリーフ

懐かしの師 恩

体育科は工務店?

前澤捷子先生 (1966年~1985年在職・体育)

赴任したばかりの頃で、忘れられない事がある。体育控室の外に作りかけの倉庫があった。放課後ともなると体育科総出で一斉に工具を片手に工事に取っかかるのである。ついには立派な?体育用具庫が完成した。手さばきはプロ顔負けであった。或る時は、女子更衣室の棚にするため古い使用済みのロッカーのドアをはずすことになった。それをハンマーで叩く作業は、後に腱鞘炎のおまけつきの力仕事であった。校庭の庭木の刈り込み、その他諸々。体育科は特設の工務店?いや縁の下の力持ちです!!

又、或る時、一人の教師が生徒と熱心に語り合っていた。丁寧な言葉使いと程良い距離感をもって会話が進むさまは、何とも清々しく、生徒を大切なお客様のような接し方をしている姿に感銘を受けた。毎週水曜日の職員会議は時には一人の教師の三十分

にも及ぶ教育談義から始まり、その後の議論百出は言うに及ばず、いつ果てることもなく続くのである。それもこれも、都立大附属高校の校風である自由と自治の精神を生徒一人一人に深く滲透させるための根幹をなす働きかけの原動力に外ならないと確信した。あちこちでユニークな授業も展開された。面白い学校と心が弾んだ。当然生徒達の心も弾んでいると見た。間もなく起った学校紛争の時でさえ、教員、生徒共々、忘れることの出来ない大きな渦の中にあっても、生徒達の目はキラキラと輝いているかに見えた。紛争終結後、体育科として取り上げた選択制の授業は、自立する心を促す実践の場でもあった。その後世が動き、画一化の嵐のさなかにあっても、その時期に在籍した卒業生の多くは自由と自治の精神を立派に受け継いでいってくれてい

る筈である。心残りのことがある。附属高校創立以来、四十六年間教鞭を取られていた生物科の亡き齋正子先生の授業を生徒の立場として一度だけでも受けてみたかった。今は昔となった先生の七十才の時に囲んだ記念写真を載せて当時を偲びたい。共に写っている村上、浅羽、大石さんは、皆お元気です。最後になりました



前列左から、浅羽禮子先生(英語)、齋正子先生(生物)、村上英佐子先生(国語) 後列左から、大石史子先生(社会)、前澤捷子先生(体育)

寄稿

寮歌・学生歌の継承

佐藤文行 17期D組

都高生活の思い出における「寮歌・学生歌」は特別ですね。記念祭のファイヤーを囲み男女入り交じって肩を組み太鼓に合わせて咆哮した体験は、日常のすべてを忘れ去った野獣のごとき青春の鮮烈な思い出です。僕らは懸命に生きていた!必死に何かを求めていた。日頃は知的で理性的な学習作業に邁進しながら、この時だけはそれこそ理性を失って、めぐるめく怒濤

の乱舞に身を任せ浸りきった。そして祭りは終わり、僕らは女子生徒一人ひとりを家まで送り届けた。そのときの胸の高鳴りも忘れられない...先だって催された同期会でも、文乙歌「いざ友(昭和15年)新制第二回記念祭歌(古きいらか)(昭和25年)などを全員で熱唱し、校歌で会を閉じました。みんな思いっきり唄っていた。五十年前のように、肩を組んでいる連中さえも居たのです。しかし今、都立桜修館中等教育学校に「ファイヤー」はないという。コーラスの会はあるそうですが、コーラスはかつてのファイヤーとは質的に全く違うものです。寮歌や学生歌を「熱唱する」機会はもうないのです。彼らはそれを必要とも感じないのでしょいか? かつての記念祭歌は学生の手作りで、作詩も作曲も生徒自身が行い、音智の演奏で講堂でコンパが開かれ

その年の記念祭歌を選出していました。そして旧制時代の「寮歌」とともに唄って覚えました。覚えてなければファイヤーに参加しても不完全燃焼に終わってしまっただけです。都高には旧制高校時代から受け継いできた《歌の財産》があります。名曲も豊富なんです。旧制の先輩たちが集う寮歌・学生歌を唄う会「一土会」では会の存続が危ぶまれるなか「継承」を悲願としています。その気持ちは切ないほどよく伝わってきます。そして今その「継承方法」を具体的に考えてゆくべき時が来ています。カタチばかりの継承では博物館の資料と同じです。「歌の魂」は《生もの》だからです。歌は唄われながらその精神を、その《魂》を継承することが肝心なのです。かつてはくらは百人コーラスでDVDを作りました。今や「次の継承手立て」を考え、後輩たちに提案し実行すべきときが迫っています。(東京芸大卒・二期会会員)

# 新刊『いのちの科学を紡いで』の出版にいたるまで

筑波大学名誉教授

太田敏子・12期



私が筑波大学基礎医学系教授を定年退職し、名誉教授を拜命してから早くも10年になります。その間、筑波大学執行部部長補佐の仕事に就いた後、現在に至るまで（国立研究開発法人）宇宙航空研究開発機構 JAXAにおいて、向井千秋宇宙飛行士の片腕として宇宙医学研究の立ち上げに携わってきました。現在も JAXA のプロジェクトアドバイザーとして、宇宙医学研究プロジェクトの CI（共同研究者）を務めています。出版のきっかけ

筑波大学を退職したとき、何人かの先生方や教え子の女子学生達から、日本では女性研究者の教授が少ないという管理職をやった人は

もっと少ないので、私の経験を書いてほしいという薦めがありました。ところが、私の定年を待っていたかのように大学運営や JAXA の仕事が続いており、とても執筆の余裕がありませんでした。

しかしながら、その10年間の社会の変化は大きく、女性の職業や政界への進出は目覚ましいものがありました。一方で、女性が専門職に就く割合は少なく、しかも、最近おきた未成熟な女性研究者による STAP 細胞の醜聞は、ただでさえ少ない研究者を目指す女性の卵たちを幻滅させました。そこで、障害物競争のような道なのですが、女性研究者の実態と、サイエンスの面白さを書くことにしました。これから未来を切り開こうとしている女性の皆さまへのエールとして、ドメス出版より拙著を出版する運びになった次第です

(写真)。

## 『いのちの科学を紡いで』

書名は『いのちの科学を紡いで』薬剤耐性菌の化学・たんばく質化学・微生物のゲノム科学・宇宙医学への道のり』というものです。本書は4つの機関：国立予防衛生研究所、自治医科大学、筑波大学、宇宙航空研究開発機構をまわって奔ってきた、私の半生の本音を綴りました。女性であり、母であり、研究者であった一女性研究者の体験を通して、その時代にどのように女性研究者を目指し、大きな組織の中でどのようにして子育てをしながら研究を続けてきたのかがつづられています。



本書は、序章、第1〜3章、終章の5つの章で構成されています。序章の研究を目指したきっかけを読み進むと、第1章は、関わった生命科学の研究分野をコラムでやさしく解説しています。そして、著名な国際誌の論文がどのようにしてできるのか、実際のドキュメントから知ることができ、理系サイエンスの面白さを伺い知ることができるとは、ずいぶん嬉しいことです。続いて、第2章では、大学や研究所の大きな組織における生の研究現場が描かれていっています。第3章では、夫のごとく、病いの克服、子供たちが与えてくれたもの、女性としての生活の側面と、引きずり込まずにはいられないその生活の知恵を知ることが出来ます。

このような女性研究者の実態を知ることが出来る書籍はほとんどありません。理系の研究者の道を選ぶことに不安を感じている女子学生はもちろんのこと、男性にとっても、きっと生き方の道しるべとなる一冊であると思っております。ご購入いただければ幸いです。

## 桜に旭日 校章のあれこれ

府立高等学校以来の校章「桜に旭日」ですが、実はアイテムによって微妙に違って見えます。いくつかの例を見てみます。

- ①校旗です。府立高等学校の縫い取りがありますが、今も毎年校修館の入学式卒業式などで飾られています。真ん中の校章は最も権威ある基本形です。
- ②学帽の帽章。旧制府立高では高等科は白線2本入り。
- ③校旗から採られた平面の基本校章。
- ④旧制府立高「服装規程図解」の徽章
- ⑤立体的凶解もあります。
- ⑥これも帽章。スミを流し込んで立体感を強調してあります。平面の基本形に比べ花びらが尖っています。
- ⑦2本線つきのバッジ。
- ⑧ベルトのバックルのレリーフ。一番短い旭光10本が省略されています。
- ⑨校修館の後期課程（高校）の生徒がつけているバッジ。これも短い旭光10本省略
- ⑩今回校舎外壁に取り付けた校章レリーフ。比較的基本形に忠実な形です。



①



②

寄稿

山荘「吾亦紅」

佐々木浩二・15期

まだ学生だった頃、府立高校の卒業生や齋先生が共同所有していた信濃追分の山荘I.C.C.をよく利用させてもらった。

当時頻りに利用していた都立13期〜16期の人たちが、I.C.C.で飲みながら誰ともなく、自分たちでもこんな山荘がほしいと言ったのがきっかけとなり、スタートしたのが現在茅野にある山荘「吾亦紅」の始まりである。たまたま予定地にペン草のように生えていたワレモコウが命名のもとであり深い意味はないが、今となっては愛着に満ちた名前となっている。

実現した夢

夢の実現に向けて、まずは先立つものとなり、お金を貯めることから始めたが、学校出たてや引き続き学びを続ける者もいて思うようには事は進まなかった。それでも1974年に入り少し無理をしても建てようということになり、構想を

まとめ、地元の大工さんに設計を頼んだ。A4一枚の手書きの図面が届いたのは驚いたが、その年の末には完成を見るに至った時のうれしさは今でも忘れられることができない。



1974年 初代 吾亦紅

設立から40年余りが経過し、この間ピーク時で250〜300人泊/年で、皆大いに利用してきた。春夏秋冬、家族、職場の同僚や友人、海外からの留学生なども来荘、恵まれた自然環境の中で何物にも代えがたい時間を過ごすことができたのでは、と思っている。

立派な2代目

1990年代に入ってメンバーにも多少の余裕ができてきたこともあって、もう少し立派なものに建て替えようということになったが、本当の理由はまともな耐震設計がなされているとは思えないA4一枚の初期設計建築図面にあったのである。

広さや使い勝手は初代での経験が生かされ、出来上がった2代目は、自宅よりも立派なものになったとメンバーの口をついて出るまでの山荘に仕上がった。建設当初周りに生えていた



1993年 再建された吾亦紅

か細かった樹木も、40年も経つと恐ろしい大きさに成長し、そのままではますます大変だということで、伐採を依頼することになった。現代の木こりたちが、ロッククライマーのいでたちで手際よく木に登り、上から枝を払いつつ下降して、最後に完全に切り倒す様は圧巻であった。

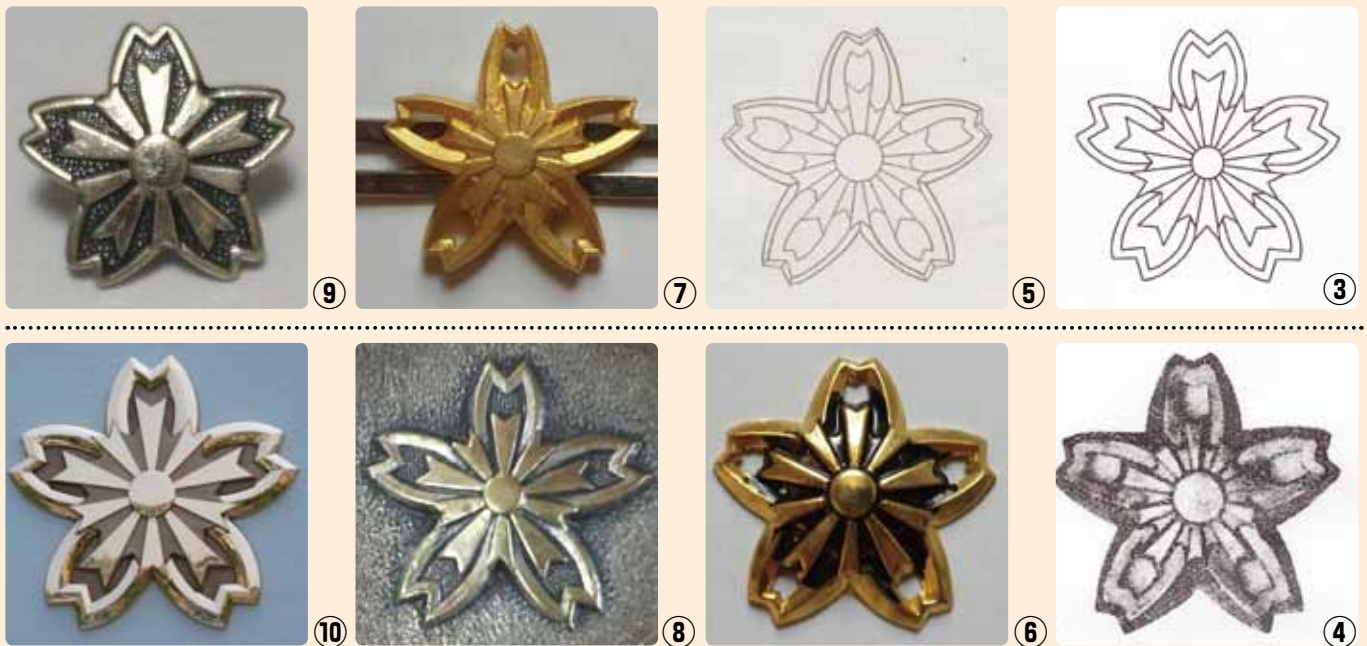
切り倒されたカラマツの年輪を数えながら、一つ一つが信濃追分から始まり「吾亦紅」の今日まで続いてきたことと重さなって見え、感慨深いものがあった。メンバーの大半がリタイア組となったにもかかわらず年間利用率が落ちてきているのは気になるが、まだまだ有効に使っていきたいと思案している。

ぜひ活用を

ちなみに、間取りはDK+和室2、大ロフトと15名程度の宿泊は可能で、ご興味ある方はご連絡いただければと思います。

〈連絡先〉

kasaki@adagio.ocn.ne.jp  
佐々木浩二まで



# 同期会・クラス会・同好会レポート

## 第6期 同期会

日時…2016年4月20日(水)  
会場…新宿ライオン会館  
参加者…28名

6期生にとって今年は卒業60年の節目の年です。同期会を4月20日、いつもの会場である「新宿ライオン会館」で開きました。出席者は28名でした。

初めに鬼籍に入られた級友(26名)に対し黙祷をしました。会は前田(旧姓尾崎)さんの司会で進められ、歓談の合間には恒例になった佐藤(旧姓須崎)さんの歌、武市君のヴァイオリン、大江君のパンフルートの演奏に耳を傾けました。

石渡君(弁護士)から「相続に伴う注意点」等身につまされる話を聞いた後には、数名から近況報告がありました。同窓会理事からは、同窓会活動の報告



と同窓会費納入のお願いをしました。

最後に幹事の戸井君から「20数年間毎年続けているこの会を、来年も4月に開催するので、是非出席してください」との挨拶があり、閉会しました。

級友の中には闘病中の方が何人かいますが、早く全快されることを祈りたいと思います。

開催案内の返信に書かれた内容から、ポランティア活動に精を出す人、最近になって楽器を習い始めた人、国内外の旅行を楽しんでいる級友が多数いることを知りました。(金子順治・記)

## 第9期 同期会

日時…2015年11月27日(金)  
会場…自由が丘カササシヤルディーン  
参加者…44名

自由が丘のイタリア料理店を借り切った九期会は、その二ヶ月前に亡くなられた喜多迅鷹先生初め鬼籍に入られた諸先生と同期生に黙祷を捧げてから開始。初めての女性司会Nさんの運営よろしきを得て和やかに進みました。遠路愛媛からのS君ご夫妻などよりの近況報告、野球部、水泳部などOB会仲間、また、歩く会、ゴルフ会など卒業後の集りからの活動報告などに加え、今回は新しい試みとして、多士



済々の同期の中から、優れた才能を持つ諸兄に、その一端を披露してもらいました。

K君のバイオリンの名演奏は参加者の耳を楽しませ、書の結社に属する別のK君、植物の細密画に驚異の能力を持つT君はそれぞれ、書と絵の最近作を会場に展示して参加者の目を驚かせてくれました。

また、喜多先生のご遺族のご厚意で、亡くなる直前に完成した先生の素晴らしい絵八枚入りの今年(2016年)のカレンダーを参加者に配ることが出来、3年間担任いただいた先生の何よりの記念になったのは、洵に有り難いことでした。

## 第16期G組クラス会

日時…2016年2月20日(土)  
会場…渋谷「パンダレストラン」  
参加者…19名

予定の2時間はあっという間に過ぎ、吉例のI君指揮の校歌斉唱後も別れ難く、幹事が用意した二次会会場に大半の参加者が雪崩れ込んだのでした。(朱牟田静雄・記)

二年に一度開催されているクラス会も早11回目を迎えました。今年には1966年に卒業してから50周年にあたり、残り47名中19名が出席。恒例となっている渋谷の中華料理店で、今回から昼食にして一時から開催されました。

皆さんの近況報告の後、二次会として予定していたカラオケは取りやめ、五時近くまで歓談。また



# 同期会・クラス会・同好会レポート

現役で仕事をしている人や、介護に明け暮れる人、日々の健康・趣味・家族の話や身近に迫った終活等の話題は尽きず時間となりました。

幹事団からフェイスブックの16期同期会サイトの紹介や、今年の秋の都立大附属高校同窓会・桜修館ホームカミングデー(10月1日予定)での16期同期会クラス会での再会を約して中締めとなりました。(兼田一晴 記)

## 放研コンパニオニ六

昨年の間お休みしていた「放研コンパ」を、遅ればせながら新年会をかねて開催した。

最長老の二回生から八回生までの20名が「日本橋竹とんぼ」に集合。ここは八回生安田氏の縁で、土曜日午後にもかかわらず貸し切りで楽しい午後のひとときを過ごす場となった。

この会は別に何回生から何回生までと区切った訳ではないのだが、半世紀を超える間に自然に収れんして現在のようになっている。今回参加者の年齢差は在学時の年代とすると、高校三年生から小学六年生といつことなるが、同時に在学していなかったにもかかわらず部活動を通じた経験が基盤となりその後のコミュニケーションにより長

い付き合いとなっている。

半世紀を超える間に鬼籍に入ったもの三名のほか、近年ではご多分に漏れず後期高齢の体調不良で出席困難者も出てきている。

和やかな雰囲気の中で、三分間スピーチに花が咲き飲食を楽しむうちにあっという間に時間が過ぎお別れの時が来た。次回は花見の案となり、三月中旬に隅田川の船遊びに決まり解散した。

が、後日桜が冷え込みでいっこうに咲かず「春のうららの隅田川」は結局お流れとなった。残念!

(4期 田中誠一郎・記)



## 「八雲展」へのお誘い

伊加利庄平・29期

「八雲展」は、旧制から新制初期に美術を教えられていた松岡正雄先生の教え子達によって昭和54年に始められた卒業生の美術展です。発足以来の歩みの中で第20回からは、次世代の卒業生や都立大学の方が加わり、昨年からは首都大学東京の若い方も一人参加されています。今年も5月に41名の出品者により第34回展が大崎のO美術館で開催され、約800名の方にご来場いただきました。

「八雲展」は、38年の歳月を先輩出品者の創造への熱い思いに支えられて開催されてきました。しかしここ数年、新会員の参加が思うように進まないことが、将来の会の継続にとってちょっとした悩みの種となっています。これはすべてにどうにかなるということではないので、会員の皆さんは、続けられるところまでは継続をと鷹揚に構えて制作に励んでいますが、新たな仲間参加は切に望まれています。

来年も5月の開催が決まりました。ぜひ同窓生の日頃の精進の成果をご高覧ください。そしてまた、美術を愛好する同窓生の新たなご参加を心よりお待ちしております。

「八雲展」ホームページ [yakumoten.com](http://yakumoten.com)



今年も油彩、水彩、日本画、墨絵、彫刻、イラスト、CG動画、パッチワークなど多彩な作品が並び、来場者は800名を越えました

# 事務局インフォメーション

2015（平成27）年度は、会計年度の変更に伴い2015年10月1日から本年3月31日まで、の変則6か月です。この間の大きな出来事といえば、昨年10月10日の桜修館創立10周年記念式典・祝賀会と、11月21日の第1回「八雲が丘ホームカミングデー」でした。

特にホームカミングデーは、ふだん母校を訪れる機会のあまりない卒業生に、卒業25年、50年の節目に八雲が丘に帰って来てもらう試みで、同窓会のイベントとして意義あるものとなりました。2回目の今年は、16期生、41期生をお招きして10月1日に開催します

## ●2015年度決算報告

今期もかなりの赤字を計上せざるを得ませんでした。ほぼ唯一の収入である受け取り会費が、130万円弱と伸びなかったため、300万円余りの支出に対して180万円近い赤字となりました。

支出の中心は会報発行費で、今期は約170万円。前期に比べ35万ほどの減となっていますが、これは一部項目が振り替わったことによるものです。支払い手数料が50万円ほど超過しており、実質はやや増加となりました。この支払い手数料を圧縮するため、発送代行業者の再選定を検討中です。

年度中に記念祭がないため事業費は前年比半減、会議費も大幅な減となりました。

## ●会費納入について

本年1月発行の会報には、ゆうちょとコンビニどちらでも使える払込取扱票を同封しました。会則・細則の改定により、会費が年額2000円になって初めての会費納入のお願いでした。

結果は決算報告にもある通り、納入いただいた方は想定より大幅に下回ってしまいました。このままでは、いずれ会報発行その他の同窓会運営に支障をきたすことになるため、会員の皆さんのより一層のご協力をお願いします。また自動振替の採用など、納入しやすい環境の整備にも力を入れていきます。

## ●2015年度の会議ほか

- 2015年10月10日 桜修館10周年記念式典・祝賀会
- 10月17日 第23回八雲が丘校友会
- 11月21日 第1回「八雲が丘ホームカミングデー」
- 2016年 1月23日 2015年度「理事・監事・評議員会議」
- 2月27日 第24回八雲が丘校友会
- 3月22日 拡大常務理事会・会報編集委員会

## ●2016年度役員

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 理事長                | 宍戸 迪武（13期） |
| 常務理事・会報編集委員長       | 須田 大春（8期）  |
| 常務理事・事業担当          | 佐々木浩二（15期） |
| 常務理事・会計担当、ホームページ担当 | 北原 久利（18期） |
| 常務理事・名簿管理担当        | 石川 恵子（35期） |
| 監事                 | 饗原 利憲（11期） |

（川島監事は一身上の都合により退任されました）

【表Ⅰ】2015年度貸借対照表(財産目録)  
2016年3月31日現在

科目・摘要	金額(単位:円)
1、資産の部	
流動資産	
現金及び預金	
現金	0
みずほ銀行普通預金	1,964,367
みずほ銀行定期預金	5,003,995
ゆうちょ銀行当座預金	2,421,680
ジャパンネット銀行普通預金	2,320,441
現金及び預金 計	11,710,483
受取会費未収金	1,171,000
資産 計	12,881,483
2、負債の部	
未払金(データジャパン・手数料)	1,042,319
負債 計	1,042,319
3、正味財産の部	
前期繰越正味財産	13,618,589
当期正味財産増減額	-1,779,425
正味財産 計	11,839,164
負債・正味財産 計	12,881,483


【表Ⅱ】2015年度正味財産増減計算書  
2015年10月1日～2016年3月31日

科目・摘要	金額(単位:円)
I、経常収益	
1、受取会費	1,271,000
2、利息収益	2,591
経常収益計	1,273,591
II、経常費用	
1、会報費	
会報原稿作成費	116,640
会報印刷製本料	780,516
会報通信運搬費	801,554
会報費計	1,698,710
2、ホームカミングデー費	
案内送付先作成雑費	123,120
案内通信運搬費	34,208
ホームカミングデー費計	157,328
3、経常管理費	
通信運搬費	18,719
支払手数料	1,046,317
会議費交際費	42,810
消耗品費	8,066
雑費	81,066
経常管理費計	1,196,978
経常費用計	3,053,016
当期正味財産増減額(経常損益)	-1,779,425

監査報告:

財務諸表、帳簿、証憑等を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。

平成28年5月13日

監事 饗原利憲 



# 桜修館同窓会の発足

伊藤正人 桜修館・1期



はじめまして、桜修館一期卒業生の伊藤正人と申します。昨年度、桜修館が記念すべき10周年を迎え、一期生の多くが大学を卒業するタイミングで桜修館の同窓会を発足させる運びとなりました。母がPTAの役員だったこともあり、私副会长となることとなり、理事となってくれる人を各期各クラスから揃え、組織としての形作りをいたしました。さらには口座を開設し、今までPTAの方に担っていただいたにお金の管理も桜修館同窓会を窓口として行えるようになりました。まだ会員である桜修館の卒業生からの承認を得ていないために(仮)の状態ではありますが、継続性のある組織を作れるよう、みなさんのお力添えをいただき頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

今後の目標といたしましては、まずは桜修館卒業後初期における各学年での交流を促進していきたいと考えています。桜修館からそれぞれ異なる進路を選び、それぞれの道を進み始めた卒業生ですが、その多くが大学に進学し、一期生は今年大学の卒業年度を迎えました。その後の人生について知る人は桜修館にはいないのですが、きっと出身として名を挙げるのは桜修館ではなく、大学名やそれに準ずるそれぞれの所属機関へと大きく変わっていくのではないのでしょうか。そうして時が経つにつれ、人間関係にも変化があることは間違いありません。しかし、それは桜修館生の仲間と過ごした時間を消すものではなく、積み重なっていくものであってほしいと思いま

す。そこで、大きな変化を迎える卒業後4年というタイミングで、一期生は先生方をご招待して同期会を執り行いました。桜修館での懐かしい話や、就職や進学についての将来の話などで盛り上がり、先生方一人ひとりからも励ましのお言葉をいただいで大盛況でございました。我々は組織として、素晴らしい先生方、桜修館生との絆を再度深められたこの企画を下の代へと継続していきたいと思えます。府立高、都大附からの伝統行事に関しては、昨年度のホームカミングデーへの参加が初めての合同での行事であったのではないのでしょうか。まずはただお邪魔させていただく形での参加ではありましたが、今後につながら、意義のある参加でありました。まるで10年前に都大附の高校生の中に桜修館生がお邪魔虫のように参加したクラスマッチのようでしたが、クラスマッチがしっかりと受け継がれたように、こういった行事に関しても受け継ぎが

す。

できればと思います。

さらには、桜修館に足りないのは縦の繋がりであることを意識して、卒業生による講演など、何かしら現役の学生にも良い影響を与えられるような組織となれば良いな、というのが少しばかりの野心です。

府立高、都大附と桜修館との円滑な橋渡しができるよう、みなさんの意見に素直に耳を傾けつつ、芯を持って自分なりにやっていたらいいなと思えます。

## 桜修館同窓会役員

- ▽会長・伊藤正人
- ▽常務理事(事務担当) 松本一生
- ▽同(会計担当) 鈴木英太
- ▽同(会費担当) 鈴木英太
- ▽監事・武藤一平太
- ▽同・羽山響
- ▽同・近藤史織
- ▽顧問・末永稜
- ▽同・竹内幹裕
- ▽理事(一期) 伊藤正人
- ▽同(二期) 丸木駿太郎
- ▽同(三期) 生地加奈美
- ▽同(四期) 岡本竜一
- ▽評議員(各期・各クラスより1名) 計16名

## (P10よりつづく) 八雲が丘学友会会則

2. 理事は、理事会を構成する。
  3. 常務理事は、会務を分掌し、理事長を補佐して、その執行にあたる。
- 第7条(役員を選出と委嘱)**
1. 理事長は、理事会において理事が互選する。
  2. 理事は、各同窓会において選任する。
- 第8条(役員任期)**
- 役員任期は3年とする。但し、再任を妨げない。
- 第9条(理事会)**
1. 本会に理事会をおく。理事会は、本会の業務を審議・決定する。
  2. 理事会は、理事長の招集により、年2回以上開催する。但し、理事の半数以上から要求があった場合は、理事長は理事会を招集しなければならない。
  3. 理事会は、会務執行のため、必要な規則を定め、また必要な委員会を設置することができる。
- 第10条(会計)**

1. 本会の収入は次の通りとする。
    - ①寄付金品
    - ②事業に伴う収入
    - ③資産から生じる果実
    - ④その他の収入
  2. 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり翌9月30日に終わる。
- 第11条(事務局)**
- 本会に事務局を設けて事務を処理する。

### 附 則

- 第1条**
- 東京都立桜修館中等教育学校同窓会が設立されるまでの期間、保護者が職務を代行する。
- 第2条**
- 本会則は、平成23年7月27日より施行する。

以上

## ＜細則＞

### 第1条(事務所の所在地、正式名称)

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2

東京都立桜修館中等教育学校内

東京都立大学附属高等学校同窓会とする

### 第2条(八雲が丘学友会)

府立高等学校同窓会、東京都立桜修館中等教育学校同窓会とともに、「八雲が丘学友会」を構成する。八雲が丘学友会の運営は、「八雲が丘学友会会則」による。八雲が丘学友会として必要経費が生じた場合は応分の支出を行う。また寄付等の実行は、常務理事会の承認のもとに行う。

### 第3条(会費)

会員の会費は年間2,000円とする。特別会員は会費を免除する。

### 第4条(経費の支出)

通常経費は常務理事会の承認のもとに支出する。高額、あるいは予算化されていない支出については理事会の承認を必要とする。

### 第5条(理事会・常務理事会)

1. 常務理事会は執行機関として会務を執行する。
2. 理事会は、書面投票制度を認める。書面投票には電子mailを含む。

### 第6条(常務理事会の構成)

理事長、常務理事で構成し、必要とされる都度開催する。構成員の過半数で決議、決定する。

### 第7条(予算・決算等会計事項)

1. 会計帳簿は担当常務理事が掌理する。ただし事務局員に実務を委託することができる。
2. 財務諸表等はNPO法人会計基準に準じ、貸借対照表および正味財産増減計算書のみを作成し、キャッシュフロー計算書、注記、附属明細書、財産目録は省略する。
3. 決算報告は監査報告を添付して、常務理事会に報告し、理事・評議員会議の承認を得る。
4. 運営予算については、年1回事業年度が始ま前に常務理事が作成し、理事会の承認を得る。

### 第8条(事務局員)

事務局員は理事長が委嘱し、有給とすることができる。給与その他の条件は理事会の承認を得る。

### 第9条(支部、委員会の設置)

1. 支部は、クラブ・サークル、あるいは地域などを母体として結成する。代表者は支部長として、理事長より理事に指名される。
2. 理事長は「会報委員会」等の委員会を設置できる。各委員会の委員は理事の中から選任する。理事以外から委員を選任する必要がある場合は、同時に理事を委嘱する。

### 第10条(名簿の管理)

冊子としての名簿の発行は当面行わないが、会員の名簿は、会報等の送付のため継続して刷新していく。

### 第11条(会報)

会報は、原則として年1回発行する。内容は編集委員会で作成し常務理事会で決定する。送付対象は別途理事会で決定する

### 第12条(ホームページ)

インターネット上のホームページは随時更新し、閲覧制限は設けない。ただし掲示板などは、投稿制限等の規制を行う。

### 付 則

1. 本細則の変更、改廃は理事会により行う。
2. 細則の規定にない事項は、常務理事会または理事長の決裁による。
3. 本細則は平成24年10月1日より施行する。

以 上

改訂 平成27年6月28日

改訂 平成28年1月23日

## 八雲が丘学友会会則

### 第1条(名称)

本会は八雲が丘学友会と称し、その本部を東京都立桜修館中等教育学校内におく。

### 第2条(会員)

本会は、府立高等学校同窓会、東京都立大学附属高等学校同窓会、東京都立桜修館中等教育学校同窓会をもって構成する。

### 第3条(目的)

本会は次の各項目を目的とする。

- ①本会は互助協力の精神に則り、各同窓会相互の交流を図る。
- ②東京都立桜修館中等教育学校の発展に寄与する。
- ③府立高等学校及び東京都立大学附属高等学校の知的財産を保護、継承する。

### 第4条(事業)

本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①理事会の開催。
- ②情報交換や交流の場を設ける。
- ③その他目的達成のため必要な事業

### 第5条(役員)

本会に次の役員をおく。

- ①理事長
- ②理事……各同窓会から2名、その他理事長が必要と認める者若干名
- ③顧問……桜修館中等教育学校校長、桜修館中等教育学校元校長、その他若干名

### 第6条(役員職務)

1. 理事長は本会を代表し、会務を総理する。理事長は、理事のうちから常務理事を委嘱することができる。

(P9へつづく)

## 東京都立大学附属高等学校 同窓会会則・細則

同窓会の会則は、母校の閉校に伴い2012年4月の総会で40年ぶりに改訂され、同年4月より施行されました。全文が2013年1月発行の同窓会報に掲載されていますが、昨年6月に一部改定されましたので、改めて全文を掲載します。会則に付随する細則も、昨年6月と本年1月に一部改定されていますので、併せて掲載しました。

### <会 則>

#### 第1章 総 則

**第1条** 本会は東京都立大学附属高等学校同窓会と称する。

**第2条** 本会は、旧制府立高等学校から受け継いだ「自由、自治、真理の探究」の精神を尊重し、会員相互の親睦を図るとともに、都立桜修館中等教育学校の充実など、教育環境の向上に寄与することを目的とする。

**第3条** 本会は前条の目的を達するため、次の事業を行う。①会員名簿の管理 ②会報機関紙等の発行 ③その他目的達成のため必要な事業

**第4条** 本会は事務所を東京都立桜修館中等教育学校内に置く。

#### 第2章 組 織

**第5条** 本会の会員は次の2種とする。①会員 東京都立大学附属高等学校を卒業した者又は在学した者 ②特別会員 本校の教官並びに理事会の承認した縁故者など。

**第6条** 本会に次の役員を置く。①理事長1名 ②顧問2名以内 ③監事3名以内 ④常務理事若干名 ⑤理事原則各期1名 ⑥評議員各級1名以上。

**第7条** 理事長、監事、および常務理事は理事会で選任する。対外的には理事長は会長、常務理事は副会長と称することがある。

**第8条** 理事は評議員による選任とするが、理事長による会員、特別会員、支部長からの委嘱を認める。また、理事は評議員を兼務する。

**第9条** 評議員の選任は各級の推薦による。但し、推薦がない場合には理事長の委嘱による。

**第10条** 役員任期は、3年間とし再任を妨げない。

#### 第3章 会 務

**第11条** 理事長は本会を代表し、会務を総理する。顧問は理事長を補佐する。

**第12条** 常務理事会は常務理事で組織し、日常の会務を執行掌理する。理事会は理事で組織し、会務を審議決定する。理事会は年1回以上開催する。

**第13条** 監事は本会の会計を監査する。

**第14条** 評議員は各級と本会との会務の連絡に当る。

**第15条** 評議員会は評議員で組織し、次の事項を付議する。①理事の選任及び承認 ②支部・委員会

の設置の承認 ③重要な運用財産の処分 ④事業計画の報告 ⑤事業報告 ⑥決算報告の承認 ⑦その他重要事項。評議員会は年1回以上開催する。

**第16条** 通常総会は3年に1回理事長が招集する。但し、必要があるときは、何時でも臨時総会を招集することができる。総会においては理事長が議長となる。

**第17条** 次の事項は、総会に付議しなければならない。①会則の変更 ②前総会日から当日までの事業報告 ③中長期的な事業計画 ④その他重要な事項

**第18条** 総会および各役員会の議事は理事長が招集し、議事の進行にあたっては理事長が議長となる。議事は出席会員の過半数で、これを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。但し会則の変更を採決するには出席会員の3分の2以上の多数を要する。

**第19条** 本会の庶務を処理するため事務局を置くことができる。事務局員は理事長が委嘱する。

#### 第4章 会 計

**第20条** 本会は会費、寄付金、その他の収入を以って収入とし、通常の経費はその範囲内でこれに充てる。また、特定寄付を受け、別会計を設けることができる。

**第21条** 本会の会計は、一般に公正妥当と認められる会計基準にて行う。会計帳簿および財務諸表等の作成は担当の常務理事がこれにあたり、監事の監査を受けなければならない。

**第22条** 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終る。

#### 第5章 支 部・委員会

**第23条** 本会はその目的を達するため、必要があるときは支部・委員会を設けることができる。

**第24条** 支部を設置しようとする者は、その代表者から本会に届けなければならない。支部・委員会は理事長が理事会承認のもとに設置する。

**第25条** 支部は支部会において特別の定めをすることができる。

#### 付 則

1、規程にない項目については、理事会により細則を定めることができる。

2、本会則は、平成24年10月1日より施行する。

3、本則第22条は移行期間として平成27年10月1日に始まり翌3月31日に終る6か月を1会計年度として扱い、翌4月1日より本則通り扱うものとする。

以上

改訂 平成27年6月28日

### 事務局インフォメーション

## 会費2000円 納入のお願い

昨年6月に開催された総会において、同窓会の会則・細則が改訂され、同窓会の会費は年会費2000円となりました。終身会費3万円と3年会費5千円は廃止されました。

今回納入をお願いするのは、2016年度の会費2000円です。同窓会の財政基盤を確立して、より幅広い活動を展開できるよう会員の皆様のご協力をお願いします。

### <今回、対象外の方>

- ①特別会員の先生方
  - ②すでに終身会費を納入された方
  - ③一昨年度に3年会費を納入された方
- 以上の方は、今回会費を納入いただく必要がありませんので、同窓会報に会費払込取扱票が同封されていません。万一同封されていたら間違いですのでご容赦ください

### <会費納入の方法>

#### ● ゆうちょ銀行、コンビニ

同封の払込取扱票をお使いください。

#### ● 銀行振り込み

ジャパンネット銀行  
 すずめ支店(支店番号002)  
 普通預金 6271398  
 (口座名義) トウキョウトリツダイガクフゾク  
 コウトウガッコウドウソウカイ

ATMから振り込む場合およびネットバンキングご利用の場合は、振り込み人の名前を修正して、名前の前に「卒業期・クラス」を入れてください。

(例=13Aトリツタロウ)

## 訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

家庭	西村吉枝 先生	外村	2015年9月12日
期・組		旧姓	
1 A	奥平 一夫		
1 A	小堀 公郎		2006年
1 A	芝辻 正昭		2015年3月25日
1 B	堀澤 宏		2013年7月19日
2 B	杉 純夫	前田	2015年12月12日
5 A	久永 節子		2015年3月4日
6 B	藤 正厳		2015年11月
6 C	間瀬 長世	武市	2015年12月18日
6 C	池澤 洋子		2015年7月
7 C	小川 一成		2012年3月
7 C	松元 泰雄		2015年6月23日
8 B	坂田 進		2015年9月
11 B	薄井 寿一		2012年2月
12 A	井上 茂		2015年12月12日
12 B	牧野 芳久		2016年2月7日
15 A	山縣 克文		
15 B	加藤 敏則		
17 A	磯山 高雄		
19 A	杉山 政廣		2015年6月30日
19 C	山田耕太郎		2015年3月3日
20 E	高橋利枝子		2015年10月27日
24 E	山田 峰子		2007年
31 A	田村 洋二		2015年12月27日
42 C	博田真理子		2015年8月17日
43 B	佐藤 格		2015年1月17日

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています

## お知らせ

### ◆第2回

### 「八雲が丘ホームカミングデー」

日時 10月1日(土)11時  
 場所 パーシモンホール小ホール  
 桜修館中等教育学校

会費 (懇親会のみ)未定)

都大附高卒業50年、25年の16期と

41期の方、および桜修館2期の方をお招きします。歓迎式典、桜修館校内見学、懇親パーティを予定しております。詳しくはホームページに掲載します。

◆「齋会」で再会、年々歳々花相似たり、齋々年々人同じからず

齋正子先生30年、喜多迅鷹先生1年を偲ぶ会を開催します。

日時 10月16日(日)13時

会場 「YAKUMON」(旧都立大跡「パーシモンホール」内、03-3724-5515)

会費 5千円

【世話人】星野欣哉(府立)、吉松安弘(2期)、八木信忠、村岡庸夫、高野祐子、田中誠一郎、小中陽太郎(4期)、齋藤曉、須田大春(8期)、久米宏、穴戸迪武(13期)、中土井雅信(21期)

出席希望の方は9月15日までに

田中誠一郎 080-6938-6768

fanakas@avis.ne.jp または

小中陽太郎 03-3701-5701(FAX)へ

## 同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は下記のいずれかの方法でお願いします。

### ●インターネット

同窓会のホームページ<http://yagumokai.org/>のトップページ左側(ご連絡) Contactボタンをクリックするとメールフォームが出ます

### ●郵送

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2  
 都立桜修館中等教育学校内  
 都立大学附属高等学校同窓会

または

〒152-0002 東京都目黒区目黒本町4-23-6  
 穴戸方 都立大学附属高等学校同窓会事務局

## 編集後記



学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

学校のマーク、シンボル。これを校舎外壁に取り付けるといふ企画が動き始めて1年、6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

教室に設けます。11日の13時から、賛歌や記念歌、学生歌を歌うイベントを行います。ぜひご参加を。

次号の会報は、来年6月末または7月上旬の発行です。原稿の締め切りは4月20日、遅くも30日。お待ちしております。

同窓会報編集委員会

8期 須田 大春

13期 穴戸 迪武

14期 川田 秀文

18期 北原 久利

21期 根岸 之夫

26期 嶋津 和行

35期 石川 恵子

今年第68回記念祭は、9月10日(土)11日(日)の両日です。

例年通り「同窓会ルーム」をB棟2階201